論　文

話し合いについての考察

――水戸市協働推進事業ミーティングへの提言――

澤　則子

Study of Discussions:

A Proposal for Promoting Collaborative Business Meetings in Mito City—

SAWA, Noriko

Abstract

I have been conducting research in the domain of collaborative business meetings in Mito City. I am focusing on how people in different positions, such as civic groups and the government, have been building consensus on meeting agendas. However, as the research progressed, it was found that it was not merely consensus building that was the objective. It was found that building rapport (trustworthy relationships) among participants is essential, and the participants' degree of satisfaction, that is, being able to share opinions frankly, is also important. Therefore, the study presents a proposal of specifically what is required for Mito City to achieve this.

要　旨

私はこれまで、水戸市協働事業ミーティングをフィールドとして研究を続けている。研究では市民団体・行政といった立場の異なる人たちが、どのようなやり方でミーティングの議題について合意形成をしているかに注目している。しかし研究を進めていくにつれ、単に合意形成が目的ではなく、参加者間にラポール（信頼関係）を構築することも話し合いの場においては必要であり、参加者が忌憚なく意見を出し合えるという、参加者らの満足感も重要であることがわかった。そのためには、具体的に何が必要であるかを、水戸市に向けて提言する。

キーワード

水戸市協働事業ミーティング（Collaborative meetings between citizens and the government）

ウエルフェア・リングイスティクス（Welfare Linguistics）
会話分析（Conversation Analysis）
会話の分裂（schizming）

1. はじめに

筆者は4年前から、協働事業ミーティングをフィールドとしたコミュニケーション研究を続けている。昨今多方面においてコミュニケーションの重要性が説かれている。コミュニケーションは、誰もが日常生活において行っているものでもある。研究に携わっていくと、コミュニケーションは話し手と聞き手の相互活動であることがわかる。さらに、私たちが何気なく行っているコミュニケーションには、規則性や原則性があり、相互活動の中で「何が起こっているのか」、「何が問題なのか」を抽出して考察することが、コミュニケーション研究で重要であることがわかってきた。

また筆者は常々、ウエルフェア・リングイスティクスにつながる実践的言語・コミュニケーション研究にも貢献したいと考えている。

ウエルフェア・リングイスティクスとは、社会言語科学学会徳川宗賢初代会長が「社会言語科学」第2巻第1号において提唱したものである（徳川, 1999）。徳川は、ウエルフェア・リングイスティクスにつながる言語研究のあるべき姿として、研究成果の社会的貢献を挙げている（村田、他2013　pp.1-5）。

「社会言語科学」第16巻第1号（2013）では、ウエルフェア・リングイスティクスにつながる実践的研究の特集をしている。社会的背景も踏まえ、ウエルフェア・リングイスティクスにつながる実践的研究の紹介を通して、現代社会にどのような言語・コミュニケーション研究が必要なのか、持続可能な社会構築のために言語・コミュニケーション研究がどのように貢献できるかを考える契機として、特集されたものである。

筆者は水戸市長の協力を得て、水戸市協働推進事業のミーティングをフィールドとする研究が可能となった。それゆえに協働ミーティングにおけるコミュニケーションの研究を通して、水戸市協働事業がより実りある事業となるための提言を行っていきたいと考えている。

本稿では、始めにこれまで行ってきた水戸市協働推進ミーティングのコミュニケーション研究について述べ、その後研究により明らかになった結果を踏まえ、2018年8月に水戸市役所職員の中の水戸市協働推進員（ナビスタッフ）研修会において、協働事業のためのミーティングへの提言をさせていただいた講演内容も含めてまとめていく。

2. 水戸市協働推進事業とは

水戸市は2009年に「市民と行政との協働都市宣言」を行った。協働とは、市の担当者（行政の専門家）と市民団体が連携、協力して公共的な事業に取り組むことをいう。両者は異なる立場で

あっても、地域を活性化させるという同じ目的を持っている。この目的を達成するためには、お互いの立場を理解し合い事業を進めることが重要である。それにより成果を上げることが期待される。

水戸市協働推進事業は、「わくわくプロジェクト」と名付けられ、水戸市民から水戸をもっと元気な町にする為の提案を募集している。

水戸市協働推進事業の実施過程は以下のとおりである。

① 事業を提案した団体は、事業担当課と協働で、公開プレゼンテーションを行う。
② 協働推進委員会での審議を経てから、採択される事業が決定する。
③ 採択後、提案団体と事業担当課の間で、基本的な合意事項について協定を結ぶ。この時に、補助金交付の手続きも行う。
④ 各事業の計画に基づき、1年間協働事業を実施する。
この期間で、採択された事業団体は担当部署と協働で、各々のやり方で計画実施に向け活動を行う。
⑤ 実施後は、提案団体と事業担当課で事業報告、及び事業の成果を振り返り、評価シートを作成する。
⑥ 事業の報告書を作成し成果を公開の場で発表する。

以下の④の過程に於いて、繰り返し行われる協働ミーティングの場面を研究対象とした。

3. 水戸市協働推進事業ミーティングのコミュニケーション研究について

3-1　会話分析

研究において用いている方法論は、会話分析（conversation analysis）である。会話分析は、「人びとの方法」のうちで、「人とことばを交わす」という実践を研究するものである。ハーヴィ・サックス（H, Sacks）によって開始され、エマニュエル・シェグロフ（E, Schegloff）やゲイル・ジェファソン（G, Jefferson）らを中心に、ひとつの研究領域として確立されてきた。

また会話分析は、人びとが会話を行うこと、そのものが、きわめて組織だった手続きによって成立していることに着目する。そのため、会話分析は相互行為の場面の録音・録画データを調べ、参与者が行為を他者にとって理解／説明可能なものとして産出し（Sacks, 1992）、それにより相互行為上のさまざまの課題を解いていく際に用いる「やり方（Garfinkel ,ibid.）」を明らかにしていく。

会話分析では、録音・録画された会話がデータとなる。録音・録画することにより繰り返しデータを聴くこと、観ること、そして書き起こし（トンスクリプト）を作成することが可能となる。

録音・録画のトランスクリプトとは、音声を文字に起こして、リアルタイムの会話場面を「目に見えるように」するものである。書き起こすために何度も録音・録画したデータを視聴し、観察した。そこで行われた会話を出来る限りそのまま、客観的に再現するためである。会話分析は、会話連鎖の中で話者が互いの理解を示し合うしくみや特徴を明らかにすることを目的とする

ため、発話内容だけではなく、例えば、間や長さ、発話の重なり、単語になっていない言い淀みやフィラー[1]など、相互行為上意味をもちうると考えられる特徴をできる限りトランスクリプトに含めることを基本としている。できるだけ細かく記述する事が重要であるため記号も用いる。

ただし重要なことは、データとなるのは、書き起こしではなく、あくまでも録音・録画された会話だということである（Hutchby & Woofit, 2008; ten Have, 2007）。

本研究で用いている記号の一部を例に挙げる。

[	同時発話（会話の重なり）開始
]	同時発話（会話の重なり）終了
＝	継続発話。前の人の発話終了と同時に、次の人の発話が開始
(.)	マイクロポーズ　短い間
(0.5)	沈黙の秒数表示
:	音声の引き伸ばし
> <	発話のスピードが目立って速い
< >	発話のスピードが目立って遅い
下線	音の強さ大きさ
¥	発話が笑いながらされている、などである.

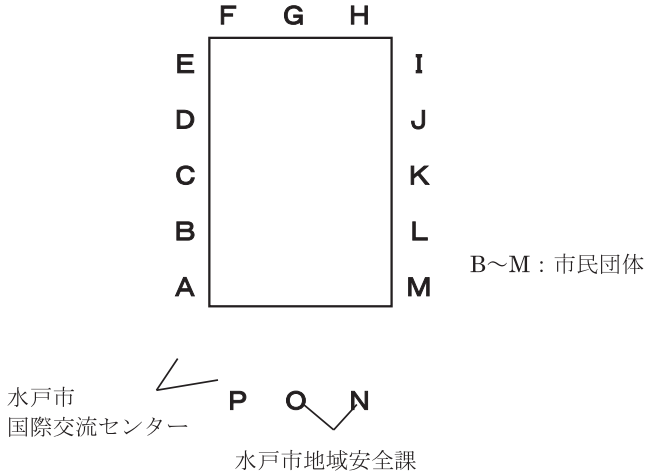
表記法としてジェファーソンによる書き起こし記号を用いることが一般的である。本研究でトランスクリプトに用いる記号は、西阪（1997）の記号システムを用いている[2]。

また、トランスクリプトを作成する場合、個人識別につながる可能性のある情報、たとえば人名、地名、学校名などはすべて匿名化した。本研究における会話参加者の名前は、アルファベットを用いている。

3-2　収録した協働推進事業ミーティング

採択された協働事業の中から対象とした協働ミーティングは、市民団体（みと男女平等参画を考える会）が提案した「外国人を対象とした防災意識啓発事業」である。この事業の市の担当課は地域安全課と水戸市国際交流センターである。収録したのは、2013年度（平成25年度）に作成した外国人を対象とする防災パンフレットを活用しての防災講座開催に向けての協働ミーティング場面である。2014年６月26日と10月23日の２回収録した。収録時間は第１回が約３時間半、参加者16名、第２回が約２時間半、参加者は14名である。

（1）　フィラーとは、発話の一部分を埋める音声現象や語句のことを指す（林（編）2008）。
（2）　本稿の最後に添付資料として記載する。



第1回ミーティング参与者配置図

3-3　収録して着目した点

この水戸市協働推進ミーティングは複雑な構造ではあったが、会話参加者が多人数であるがゆえに、1対1の対面のコミュニケーションとは異なる、興味深い場面が多く見られたため、なぜそうなるのか、考察することにした。

2つを具体的に述べると、①多人数の会話参加者でミーティングが行われているため、同時多発的に複数の会話がミーティング内で発生している（会話の分裂：schizming）。しかし同時多発的に発生した会話の参加者たちは、何かのきっかけでミーティングの本題に戻り、ミーティングは、その日の話題（topic）について進行していく。

ここで「会話の分裂」について説明しておく。会話は、原則、話し手と聞き手の2人がいれば成立する。しかし4人以上の参加者がいる状況では、同時に複数の会話が発生することも可能である。これを会話の「分裂」（schisming）と呼ぶ（Sacs, Shegloff, &Jefferson.1974）。

以下に水戸市協働推進ミーティングにおいて4ヶ所で会話が発生している場面のトランスクリプトを示した。本題に加えて3ヶ所で発生している会話を下線で分類している。

01 B：結局こんなものもない なんにもない あの お釜があって
02　：→（01：G あれ　二の丸も　そういえば）火があって，お水が あると
03　：で　お米があってそうすると それで　あの熱湯かなんかに
04　：ポーンと入れてどのくらいで　ごはんができるとかって（02：G
05　：性会の人が言ってた）従来の炊き方では時間もかかって
06 L：燃料がね：：限られているから[ね：]
07 B：　　[う：んできない]っていうので
08　：そういうのであったんですけど↓そういう事は
09　：°やらないですよね°　→（01：K °おかゆになっちゃう°）
10 O：そうですね：（02：L　熱湯からね：　むずかしい）

11　：今　熱湯は使ってないんですけどある小学校の訓練とかでは
12　：あの，空き缶を使って →（01 D：　今　どこまで　話してますか？）
13　：[え：あの：さ（）めしというんですが] 空き缶を使って
14 B：[あのね：そうですね]
15 O：熱湯を[使ってご飯を作る]っていうのは[あります]
16 B：　　[なんか　使ってますよね]　[そいうの　ありますよね：]
17　：<わかりました>
18　：（0.5）⇒（04 C：　これ全体についてやってるから）
→19 B：じゃあ　一応あのあれですよね：今あのこちらから聞いたものも
20　：そうだしなんか　あの新しい自分たちのテーマも　あたえてもらっ
21　：たみたいな事も　あるので　今のところは　すごい きっかけに
22　：なるかと 思うんですけど:=
23 O：=キューアンドエーだとわかりやすいですね
24 B：それ　す[ごくいいかもしれない　う：：ん]
25 O：　　[いいかもしれないですね（　）]
26 A：意外と あの　実は　さいごの　さいごで　おはな あの　こちらで
27　：要望したかと思うんです この9ページで 持って逃げるもの
28　：（14 L：こんなに時間かけ　：て（　））
29　：それから準備しておくものは，各項目が そもそも
30　：なんだか　よく[<わからない>]
31 B：　　[わからない] ⇒（16L：　°￥°うるさい°￥）
32 A：だから本当は この飲料水だったら飲料水のとこにこうイラストが
33　：あったりとかーあの(.)カイロがわからない．⇒（27F：いや　み
34　：んなおなじよ　みんな同じにしたつもり　ここまで入れて）
35 B：わからないよね：¿
36 A：ホッカイロは　日本ではあの：誰もが　知ってますけど
37　：ホッカイロ自体は知らない＝
38 B：＝知らないよね

②ミーティングの進行役が明確に決まっていないもかかわらず、ミーティングの進行の管理が、複数の人びとによって行われている、ことである。

以下に示すトランスクリプトは、ミーティングの始まり場面で、その日のミーティングの議題（外国人のための防災訓練開催について）に入る前に、当該事業で自分たちが作成した外国人の為の防災パンフレットの配布場所について、参加者から発言があった。その話が20分くらい続き、議題になかなか入ることが出来ない。配布場所の話題を一旦取り止め、２人の参加者が議題についてミーティングを進行させるようにしている場面である。

01 C：会長の方にね：ここのあるっていう事で一応あの：各自そういうの
02　：持ってかないで会長の方に一回報告して　あ[の冊数もらってね]
→03 B：　　[っていうか，そこんと
→04　：ところは　またみんなで　　ちょっと　[やりましょう.
05 C：　　[そうですね
→06 B：今日はその：みなさんに来ていただいているので重[要　え：：あの：
→07 C：　　[そうですね
08　：2の方ね
09 B：え：↓そこのところを　少し[つめた－]
10 K：　　[あと　カルチャーセンターとか，色々
11　：韓国語とかを教えている教室が，けっこう　あるんですね＝
12 C：＝そういうのは　国際交流のほうで対応して[くださっているから
13 K：　　[>あっ　そうですか<°
14　：それから[FMぱるるんなんていうので　紹介した[ら，
15 C：　　[やっ　やってないですか？外国語の教室とか
16 M：社長にあげ[た.
17 C：　　[各英語の教室とか　韓国語の教室　だし°
18 K：　　[おくりました？
19 M：FMぱるるんの[（　　）
20 K：　　[ありまし[た.
21 A：　　[あ：↑やってます だいじょ－
→22 B：一応だから↓宣伝したいと私の方で言ってきたので
23 C：　こちらで　°やってる°

3-4　観察してみえてきたこと

収録した録画データを観ていた時には、複数の参加者がパーティを作り、同時に会話をしていたせいか、ミーティングの場が雑然としたものであるように見えた。このような状況で、結論が出るのであろうかとも思った。まだトランスクリプトを作成していなかった段階であったため、それぞれのパーティで何が話されているかも分からなかった。議題に関連したことが話されているかも分からなかった。中には議題に関係ないことが話されているように見えるものすらあった。しかし、トランスクリプトを作成し、その上でそれぞれのパーティの会話を丹念に観察してみると当然のこととはいえすべて議題に関連することが話されていた。具体的に述べると、それぞれの参加者はそれぞれのパーティの中の会話で、新しいアイデアを出したり、あるいは他の参加者から出された意見や提案に承諾を明確に示したり、さらに代案を挙げたりしている。すべて問題を解決するための活発な意見交換であると考えられる。そのような会話の分裂は、いつまでも続くわけではなく自然に終息し、本題へ戻っていく。

当該協働ミーティングでは、明確な進行役が決まっていないのにもかかわらず、ミーティングは進行し、議事についての結論が出されてミーティングは終了している。参加者が議事を進行す

る指向性を持っているため、このことが可能となると思われる。

議事進行に関する指向性を持っている参加者は、１人だけではない。議事進行に関する指向性を持つ複数の参与者が、話し合いの状況に応じて、協働でミーティングの議事を進めている。その行為に対し、他の参加者も議事を進行させることに協力をしている。それぞれの参加者に、ミーティングの議事を進行する指向性があることがうかがえる。

参加者それぞれが議事進行に関する指向性を持っていることにより、当該協働ミーティングの会話の分裂は、ミーティングの場で、自由に意見を述べ合える雰囲気を作り(3)、ミーティングの目的達成に対して効用を与えているのではないだろうかと考えられる。

また当該ミーティングにおける「会話の分裂」は、ミーティングが進行していく中での、発話内容や行動をきっかけに発生していることも明らかになった。そして「会話の分裂」をすることによって、ミーティング参加者らは、浮かんできた問題を解決したり、他の参加者の発話に対する自分の意見を述べたりしている。そして「会話の分裂」は、いつまでも続くわけではなく、１つのパーティに戻っている。この現象を繰り返しながら、当該ミーティングは、その日の目的を協働で達成している。

当該ミーティングにおける「会話の分裂」は、参加者らのミーティングにおける積極的な関わり方のひとつとして考えられる。

4. 問題提起

水戸市協働推進員（ナビスタッフ）研修会後、参加者から次のような感想を聞くことができた。「行政側はどこまでやればいいか、遠慮する。」「録画されたミーティングを見て、自分が担当する図書館では、ボランティアの方々とあのような雰囲気で、話し合うことは出来ないような気がする。」などである。

確かに研究対象とした水戸市協働推進ミーティングは、意見が活発に出され、議題に関する結論も出されていた。しかし改善した方がよいと考えられる点もいくつかあると思われた。

4-1　建設的な話し合いが出来ているか

NPO活動もしている出版社経営者の松本（2015）は、われわれの社会が、十分にコミュニケーションできていない。民どうし、民と官の対話が上手くいっていないという現状を打破するのが、21世紀の課題であると著書で述べている。その中に対話を次のように定義づけしている。「対話とは、自分と違った考えを持っている人と上下関係でも、親子関係でも、主従関係でもなく、対等に議論を交わすことを対話と呼びたい」。

さらに、市民参加型のまちづくりをめぐる談話研究も行っている村田（2014）は、着地点を見出すまでは異なる意見を出し合うことが必要で、市民参加型であるなら、とりわけ立場を超えて発言できるコミュニケーション活動であるべきであると述べている。異なる価値観であることを

（3）　2014.10月に国立情報学研究所/サテライト会場・京都大学で行われた身振り研究会における天谷氏（東京大学博士課程）の意見を参考にした。

知って、そしてお互いの価値観をすり合わせながら何らかの合意に達することを、「話し合い」と表現している。

水戸市推進事業の趣旨も、市民団体と市が達成しようとする目的や課題を共有し、各々の特性に応じた役割分担のもと、それぞれの責任を果たしながら、対等な立場で連携・協力して公共的な事業に取り組むことが出来るようになることである。

水戸市協働推進事業のミーティングの参加者も、それぞれが異なる立場であり、持っている価値観も様々である。よって筆者も対象とした水戸市協働ミーティングは、「話し合い」と呼ぶのがふさわしいと考える。そこで建設的な「話し合い」が出来ているかという視点で、再度観察をしてみた。

4-2　**気づいた点**

4-2-1

当該水戸市協働推進ミーティングでは、本題から内容がずれてしまう発言、また解決済みの話題に戻ってしまう発言の場面も多くみられた。

12 M：燃料が大変だね：
13 L：うんそれに　ある程度　おいしく食べる（.）のも前提ですよね
14　：これはだって　こんなに　時間かけて（　　）
15　：（5．0）
→16 L：°¥°うるさい°¥　¥°うるさいよ°¥

参加者の一人は、まだ会話の分裂を続けているパーティの方に視線を向け、うるさいよ、発話し本題を話し合う1つのパーティに戻すことを試みている。

4-2-2

また議題についての新しい意見を出し、それについて隣の人と話しているが、最終的には笑いながら「怒られちゃう」と発話し。自分の意見を取り下げている場面もあった。

05　：いろんな場所で　ね：：そういうのって　あなた　詳しくないの？
06　：パネル作るっていうのは
07 D：詳しいですよ
08 F：お金かかる？　すごく
09 D：聞いてみますか？　安く
→10F：いや　もう　ど　き　　¥怒られるから　お金もないんだから

4-2-3

会話の分裂という場面が多いことでもわかるように、主に市民団体の参加者それぞれが時間を気にせず話しているように思えた。一方行政側の参加者は限られた時間でミーティングに参加しているため、ミーティングが終了予定時刻を過ぎた頃から、複数回自分の腕時計に視線を向けて

いる場面も確認された。

多くのミーティングでは、進行役が終了を述べ、それを参加者が承認して、ミーティングは終わる。終了を告げるやり方も、そこまでの話題を要約し結論を述べる、あるいは、進行役が参加者に礼を述べる、などがあるBarns（2007）。終了を承認するやり方は、進行役の終了を沈黙により承認する、進行役の礼に対し、同じように礼を述べ終了を承認するなどである。

しかし当該水戸市協働推進ミーティングでは、3回終了を告げても、会話は終了せずに、ようやく4回目の終了の発話でミーティングが終わる。1回目の終了を告げる発話で、行政側の担当者は手元の資料を片付け、かばんに入れようとするが、ミーティングは終了せず会話が続いたため、その行為を途中でやめている。

このことから時間の経過については市民団体の参加者より行政側の参加者の方の意識が高いと考えられた。

34　　：じゃあ　お願いして　あとは　細かい事があったら　あのお互いに
35　　：よろしくお願いします
36 C　：なにかあれば　Bさんのほうに↑ね
37 B　：連絡いただければ
38　　：　　（0.2）
→39 B　：はい　どうもありがとうございました
40 全員：ありがとうございました
→41　　：　　（0.2）
→42 A　：当日って　地域振興課のかたって来るんですか？
43 B　：だから　今声かけて

5. 具体的な提言

5-1　誰もがファシリテーターになれるように

議長（chair）がいる公式度の高いミーティングにおいては、多くの場合、議長がフロアの統制と話題の管理を行う。また議長は、発言の順番（turn）だけではなく、ターンの長さや話題の関連性について管理を行う。会話の終了の仕方も、フォーマルなミーティングでは、議長により明確に示される。そのため議長は、フォーマルなミーティンングにおいて重要な役割を果たす存在である。

市民と行政とのまちづくりのミーティングを研究した論文がある。村田（2013）は、まちづくり系ワークショップ(4)の進行役であるファシリテーターの言語的ふるまいの特徴を明らかにし、それが話し合いにどのような影響を与えているか、まちづくりをめぐる話し合いに有効かを考察している。研究の中で、まちづくりミーティングとビジネスミーティングとの違い、共通点を挙

（4）　住民参加型における話し合いで、ファシリテーターを伴う産官学民といったセクターを超えた人々によって行われる（村田, 2013）。

げ、ミーティングを進めていくファシリテーターの役割の重要性について述べている。

ファシリテーターとは、議論に対して中立的な立場で議論を進行しながら参加者から意見を引出し、合意形成に向けて提案をまとめる調整役で、近年社会活動や地域住民活動において、その役割が注目されている（堀 2004、今川他2005、土山2008、村田 2013）。村田（2013）は、ファシリテーターは進行役と位置づけられているが、分析により進行以外の役割も担っていることを明らかにしている。

ファシリテーターは、参加者が発言している間に「はい」「なるほど」といったあいづちをする、「確かにそうですね」といった共感や同意などを表明するだけでなく、参加者の発言をさらに詳しく知るための質問を投げかけるといった方法で、積極的に聞いていることを表すような言語的ふるまいを効果的に使用していることが明らかになった。

このようなふるまいは、参加者が立場を超えて平等な話し合いに臨めることに役立ち、さらには話し合いの進行に参加者の誰でもがついていけるようにするという配慮でもあると考えられる。

筆者がコミュニケーション研究のために収録した3つの水戸市協働推進ミーティングは、ミーティングを進める役割を担う議長も明確には決まっていなかった。またファシリテーターについての認識もなかった。

もしファシリテーターの役割をする人が存在すれば、ミーティングの中での会話の分裂も減少し、偏った人だけの発言や少数意見が聞き入れられないケースも少なくなると思われる。また、市民団体に対する行政側の遠慮も無くなり、誰もが参加者全員に向けて自分の意見を述べるという会話スタイルが多くみられると考える。そうなれば、今まで以上に水戸市協働推進ミーティングは「参加者が平等で臨める話し合い」「参加者同士が話しやすい話し合い」「限られた時間内で結論に至る」ミーティングの場になり、効果的にまちづくりを進めることができるのではないだろうか。

しかし水戸市協働事業においては、必ずしもファシリテーター作るべきだとは思ってはいない。まずはファシリテーターの認識を深めることが優先であると考えている。

なぜなら現在の水戸市協働推進ミーティングでは、ファシリテーターの役割に関する指向性を、ミーティング参加者が各々持ち、協働ミーティングに臨んでいるため、進行役が明示的に決まっていなくてもミーティングは進行し結論を導きだしているからである。

だからこそ、市民団体側、行政側の参加者誰もが、ファシリテーターになり得ることが出来るよう人材を育成する方が良いのではないかと提言する。そうすることにより今までまちづくりに関心がなかった世代からも、新しい人材を発掘できることにつながるのではないだろうか。

5-2　プロセスを共通理解するための可視化

水戸市協働推進ミーティングでは、それぞれ立場の違う参加者が同じ目的に向かい、自由に意見を述べ合っている。議事録も作成されているわけではない。

収録した水戸市協働ミーティングに、次のような場面がある。

→01 D：今　どこまで　話してますか？
　02 C：えっ↑　こっちの　いや　こっちの（　　）そうじゃない

03 D：これでいうと　どこまで行ってますか？
04 C：今ここ内容のとこなんですけど　そうじゃないここまで　これ全体に
05　：ついてやってるから次は　これと　（　　）こっちをこの中で（　　）

本題を含め4つのパーティで会話が発生しているため、どのパーティにも属していない参加者が、隣の人に「今、どこまで話しているか」を確認しているのである。

また筆者が行っている大学の授業で、コミュニケーションとは何か、という問いを提示しグループごとに発表をしてもらったことがある。その際、みんなから出された意見を紙に書き、それらをグループ全員でまとめて発表するような方法を取った。その結果各グループから様々な意見が出された。

これらのことから、どのような意見が出たのか、どのようにして結論に至ったのかについて、ホワイトボードに記録する、意見を書いた付箋などを貼るなど、誰でもわかるように記録することが重要ではないかと考える。

5-3　立場を超えて自由に発言できる話し合いのルール作り

宮城県仙台市には、「クリーン仙台推進員制度」というものがある。これは町内会などから推薦された方々を委嘱して、各地域でのごみの正しい出し方、ごみの減量、リサイクルなどの活動のリーダー的役割を担ってもらうことで、快適な生活環境づくりを市民と行政が協働して、効果的に進めていくことを目的とした制度である。

その「クリーン仙台推進員クリーンメイト活動の手引き」の中に、次のようなことが記されてある。

・アイデアを多く出してほしい場合の話し合い時のルール例
①批判禁止　②たくさん出そう　③とっぴな案も賛成　④連結・応用もOK

このようにまちづくりをめぐる話し合いでよく用いられるのに「グランド・ルール」と言われるものがある。話し合いの簡単なルールを本題に入る前に提示し、参加者で共有するものである。

たとえば「相手を非難しない」、「意見を否定しない」、「人の話をよく聞く」、「少数意見を大切にする」、「主体的に参加する」など、話し合いを始める前に、参加者全員が納得できるようなルールを提示することによって、話し合いがスムーズに進むことに役立つのではないかと考える。

6. まとめ

『雑談の美学』（村田・井出 2016）の中に、「価値観もバックグランドも異なる者同士で行われるまちづくりの話し合いにおいて雑談（本題に関わる情報伝達を行う発話ではないもの）は非常に重要な役割がある。話し合いが活発に進み、参加メンバーが忌憚なく意見を出し合える活発で建設的な話し合いを行うためにも雑談は必要不可欠である。」という一節がある。

研究対象とした水戸市協働推進ミーティングで見られた「会話の分裂」も、参加者が自由に発言できる雰囲気づくりに大いに貢献しているのであろう。ただし、収拾がつかなくなるようになるほどの「会話の分裂」が発生してしまっては困るが、当該水戸市協働推進ミーティングは、数

多くの「会話の分裂」を繰り返しながらも本題に関する合意形成という目的も果たしている。

水戸市協働推進事業を効果的に実現するためには、単に結論導き出すということだけではなく、参加者間につながりを構築することや、参加者が話し合いで「十分に意見を出すことが出来た・様々な意見も聞くことが出来た」など満足感を得る、あるいは「自分たちがこの事業に関わり活動をした」というような達成感を味わうことも重要であると考える。言い換えれば、異なる立場や意見、新しい情報を知り学びあいながら結論をひきだす「話し合い」を目指す必要があるのではないかと考える。

謝辞

はじめに高橋靖水戸市長に、深く感謝申し上げます。市長が本研究をご理解して下さったおかげで、水戸市推進事業ミーティングを研究フィールドとすることができました。また各市民団体の皆様、水戸市地域安全課、水戸市国際交流センター、皆様にも心より感謝いたします。皆様からご協力をいただいたからこそ、研究を進めていくことができました。そして提言の機会を与えてくださった、水戸市市民協働部　市民生活課協働係のみなさにも感謝いたします。これからも、引き続き社会貢献につながる研究をしてまいります

引用文献

Barns,R.（2007）. Formulations and the Facilitation of common agreement in meetings talk. Text & Talk 27（3）pp.273-296

遠藤智栄（2011）.「クリーン仙台推進員クリーンメイト活動の手引き」http://www.city.sendai.jp/kankyou/haikibutsu/clean/pdf/jirei/2011.pdf 仙台市環境局

Hutchby,L. and Woofit,R.（2008）. *Conversation analysis, 2 nd ed.* Cambridge,England: Polity. ten Have,P.（2007）. *Doing conversation analysis: A practical guide.* 2 nd ed.London: Sage.

加藤哲夫（2002）. 市民の日本語－NPOの可能性とコミュニケーション　ひつじ書房

松本功・村田和代・深尾昌峰・三上直之・重信幸彦（2015）. 市民の日本語へ－対話のためのコミュニケーションモデルを作る－　ひつじ書房

村田和代（2013）. まちづくり系ワークショップ・ファシリテーターに見られる言語的ふるまいの特徴とその効果－ビジネスミーティング司会者との比較を通して－　社会言語科学, 16（1）, 49-64

村田和代・森本郁代・野山 広（2013）. ウェルフェア・リングスティクスにつながる実践的言語・コミュニケーション研究 社会言語科学 16（1）pp.1-5

村田和代・井出里咲子（2016）. 雑談の美学－言語研究からの再考　pp.67 ひつじ書房

西阪 仰（訳）（2010）. 会話分析基本論集　H.サックス・E.シェグロフ・G.ジェファーソン　世界思想社

Sacks, H.（1992）. *Lectures on Conversation.* Oxford, England: Blackwell.

Schegloff, E .and Sacks, H.（1973）. Opening up Closing. *Semiotica*

Schegloff,E.A,Jefferson,G.&Sacks,H.（1977）. The preference for self-correction in the organization of repair in conversation, *Language*, 53（2）

徳川宗賢（1999）. ウエルフェア・リングイスティクスの出発　社会言語科学 2（1）pp.89-100（対談者：J.V.ネウストプニー）

本研究トランスクリプトで用いた記号についての資料

以下は、Gail,Jeffersonによって、おもにヨーロッパ語の会話分析のために開発された転写のためのシステムを、日本語の会話分析のために、西阪（2008）にまとめたものである。本研究データのトランスクリプトは、以下の記号に従って記述している。

1. 重なり

[　複数の参与者の発する音声が重なり始めている時点は、角括弧（[）によって示される。

（1-1）　A:　**はいはい，[こんばんは**
　　C:　　**[わかりますか::?**

[ ]　重なりの終わりが示されることもある。

（1-2）　C:　**あ，あの吉田::と申し　[ま　す け　ど::,]**
　　A:　　**[はい，どうもどうも]**

[[　２人の話し手が同時に発話を開始するとき、それは、とくに二重の角括弧（**[[** ）によって示される。

（1-3）　A:　**あ そんな昔からあるんだ.**
　　B:→ **[[ええ: だから あの:: 昔:-**]
　　C:→ **[[>そう そう そう< あの個人経]営の普通の食堂だったの.**

2. 密着

=　２つの発話が途切れなく密着していることは、等号（**=**）で示される。

（2-1）　A:　**うん.(.) あれ?=**
　　B:　**=あれ?**

１つの発話において、語と語がが途切れなく密着していることは、その間に等号を挟むことで示される。

（2-2）　S:　**もどった=でも::**

さらに、音の重なりを書き取ったがゆえに、１つの発話が、間の１行（もしくは２行以上）により分断されることがある。このとき、この分断された発話が１連なりの発話であることも、分断された両端に等号（**=**）付すことで示される。

（2-3）　C:→ **その白熱した その[若者の**（h）**いけ**（h）**んの]場だった=**
　　B:　　**[む:::::　む:::::]**
　　C:→ **=らしい（よ）**

3. 聞き取り困難

(　)　聞き取り不可能な個所は、(　) で示される。空白の大きさは、聞き取り不可能な音声の相対的な長さに対応している。

（3-1）　A:　**押しても（　　）だから**

（言葉）　また聞き取りが確定できないときは、当該文字列が（ ）で括られる。

（3-2）　A:　だって, あそこ, こう（いって, こう-）

4. 沈黙・間合い

(n.m)　音声が途絶えている状態があるときは、その秒数がほぼ0.2秒ごとに（　）内に示される。

（4-1）　A:　あの ホテルにスケジュール, 貼ってあるでしょ?
→（1.0）
C:　え,（.）どこですか?

(.)　0.2秒以下の短い間合いは、（ ）内にピリオドを打った記号、つまり（.）という記号によって示される。

（4-2）　C:　え,（.）どこですか?

5. 音声の引き延ばし

::　直前の音が延ばされていることは、コロンで示される。コロンの数は引き延ばしの相対的な長さに対応している。

（5-1）　A:　こないだ::::: は, 五時:: 半ぐらいまででしたね.

とくにローマ字でトランスクリプトを作るとき、コロンはあくまでも「有標化された（marked）」引き延ばしのための記号であることに注意されたい。たとえば、「そう」や「ええ」は、「soo」や「ee」が「普通の」発音を表現しているのだから、「so:」とか「e:」などと表わさない。

6. 言葉の途切れ

言-　言葉が不完全なまま途切れていることは、ハイフンで示される。

（6-1）　A:　じゃあ いま おお- これってさ::,

7. 呼気音・吸気音・笑い

h　呼気音は、hhで示される。hの数はそれぞれの音の相対的な長さに対応している。

（7-1）　S:　どれだろう? hhhh

.h　吸気音は .hhで示される。hの数はそれぞれの音の相対的な長さに対応している。

（7-2）　C:　.hh 二枚目が重なってて読めないっ:: す::

言(h)　呼気音の記号は、笑いを表わすのにももちいられる。とくに笑いながら発話が産出されるとき、そのことは、呼気を伴う音のあとに（h）を挟むことで示される。

（7-3）　B:→ほ（h）んで: あれ（h）す（h）かね（h）.h もうちょっと
たってから来てくださいつって

（7-4）　B:→ho（h）nde: are（h）'su（h）ka ne（h）.h moo chotto
tatte kara kite kudasai tsutte

¥ ¥　発話が笑いながらなされているわけではないけれど、笑い声でなされているということもある。そのときは、当該箇所を¥で囲む。

（7-5）　B:→ .h ↑そうしたら: .h¥健康診断んときに:¥ も (.)
k- け:- け:- 血圧測ったら .h え - ばくんばくん [いっちゃって:

8. 音の強さ・大きさ

下線　音の強さは下線によって示される。

（8-1）　C:　三時十五分.

wo:　強勢のおかれた場所は音が高くなりがちである。発話の区切りなどで音が少し高められたあと、すぐにもとの高さに戻るといったことが、しばしば観察される。このような発声は、最後の母音に下線を引き、そのあとに下線のない「引き延ばし」記号（コロン）を付すことで示される。かな漢字のときは、最後の文字に下線を引く。

（8-2）　B:　kedo- ano booingu no: .h ano: jimusho ni:
（8-3）　B:　あの ボーイングの: .h あの: 事務所に:

wo:　強調を伴いながら末尾が少し上がるようなやり方で区切りがつくこともある。これは、「引き延ばし」の部分にのみ下線が引かれることで示される。かな漢字のときは、語尾に、語尾の母音を表わす「あ行」の小文字を補うこともある。

（8-4）　B:　sugoi mecha kucha omoshiroku te:
（8-5）　B:　すごい めちゃくちゃ おもしろくて:
（8-6）　B:　すごい めちゃくちゃ おもしろくてぇ

CAP　強勢の置かれた音はしばしば大きくなるが、必ずそうなるとはかぎらない。とくに音が大きいことは、（ローマ字の場合）大文字をもちいることで示される。

（8-7）　C:　SOODA N:N N son（na =）MEN MASHI- MEN MASHI=

大　かな漢字のときは、斜体により音の大きいことが示される。［未確定］

（8-8）　C:　*そうだ ん ん ん そん（な =）麺まし - 麺まし =*

° °　音が小さいことは、当該箇所が°で囲まれることにより示される。

（8-2）　S:　°う:::ん°, で,

9. 音調（イントネーション）

.,?¿　語尾の音が下がって区切りがついたことはピリオド（.）もしくは句点（。）で示される。音が少し下がって弾みがついていることはカンマ（,）もしくは読点（、）で示される。語尾の音が上がっていることは疑問符（?）で示される。語尾の音が一端上がったあとまた下がる（もしくは平坦になる）とき、それは逆疑問符（¿）で示される。

（9-1）　A:　リリー企画でございま:す.
（9-2）　A:　はい,

(9-3)　A:　**もしもし:::?**
(9-4)　C:　**h-へえ:¿**

↓↑　音調の極端な上がり下がりは、それぞれ上向き矢印（↑）と下向き矢印（↓）で示される。矢印がもちいられるのは、あくまでも「有標化された」、通常ならざるものとして聞ける音の上がり下がりであり、たとえば質問のさいによくある語尾の上がりは、通常の音の上がりであるかぎり、そこに矢印がもちいられることはない。

(9-4)　A:　**↑う::ん.**
(9-5)　A:　**ああ:::: ↓ ::::::.**

言葉_　語尾の音調があえて平坦に保たれるとき，それは空白上の下線（_）によって示される.

(9-6)　B:　**ん_< 二泊三日>っていうこと:?**

10. スピード

> <　発話のスピードが目立って速くなる部分は、左開きの不等号と右開きの不等号で囲まれる。

(10-1)　C:　**>おぼ（h）えてるっていうか, おぼえてるじゃないよ<, あのね::,**

< >　発話のスピードが目立って遅くなる部分は、右開きの不等号と左開きの不等号で囲まれる。

(10-2)　B:　**誹謗中傷のメールがあまりにも <多すぎて:>**

<言葉　急いで押し出されるように発言が始まるとき，そのことは右開きの不等号（<）がその発言の冒頭に付されることで示される.

(10-3)　04 A:　**中目黒:↑（(歌うように)）**
05 B:→ **<で:乗り換えて:**

言葉<　急いで慌てて発言が終えられるとき，そのことは右開きの不等号（<）がその発言の末尾に付されることで示される.［未確定］

(10-4)　B:　.hh **てゆうか::<**

11. 声の質

 # #　声がかすれている部分は、#で囲まれる。

(11-1)　O:　**#ええ:#:::?** h

12. 注記

(( ))　発言の要約や、その他の注記は二重括弧で囲まれる。

(11-1)　**((5行省略))**
(11-2)　A:　hh **((咳払い))**